

茨城へようこそ

すい ふ かぜ
～「水府の風」のおもてなし～

本年10月16日に、茨城県で第39回建築士事務所全国大会（茨城大会）が開催されます。

幕末の志士に大いに影響を与えた「水戸学」。“他国の人の来訪を悦び、接し認め歓待優遇し、心胸を吐露して隠す所がない”という「水府の風」のおもてなし術を現代に生かし、訪れる人々に喜ばれる「おもてなし日本一」を目指しています。

ぜひ、茨城にいらしてください。

◆茨城県の建築・見どころ紹介



①袋田の滝

○太子町

茨城を代表する景勝地「袋田の滝」や、多くの映画、ドラマ、CMの撮影に使われている「旧上岡小学校」などがあります。



②旧上岡小学校

○笠間市

笠間焼のまちとして知られ、「茨城県陶芸美術館」など陶芸に関する施設や窯元なども多く、市内には日本三大稲荷に数えられる笠間稲荷神社があります。



③茨城県陶芸美術館



④真壁伝承館

○桜川市

重要伝統的建造物群保存地区である真壁町には、風情ある景観のほか、設計組織ADHが街並みのサンプリングにより設計した「伝承館」などがあります。

○結城市

伝統文化の結城紬を現代に伝えるべくつくられた「つむぎの館」では、見世蔵を保存活用したギャラリーや、地域の代表的な古民家を移築した陳列館などがあります。



⑤真壁の街並み



⑥つむぎの館「手織里」



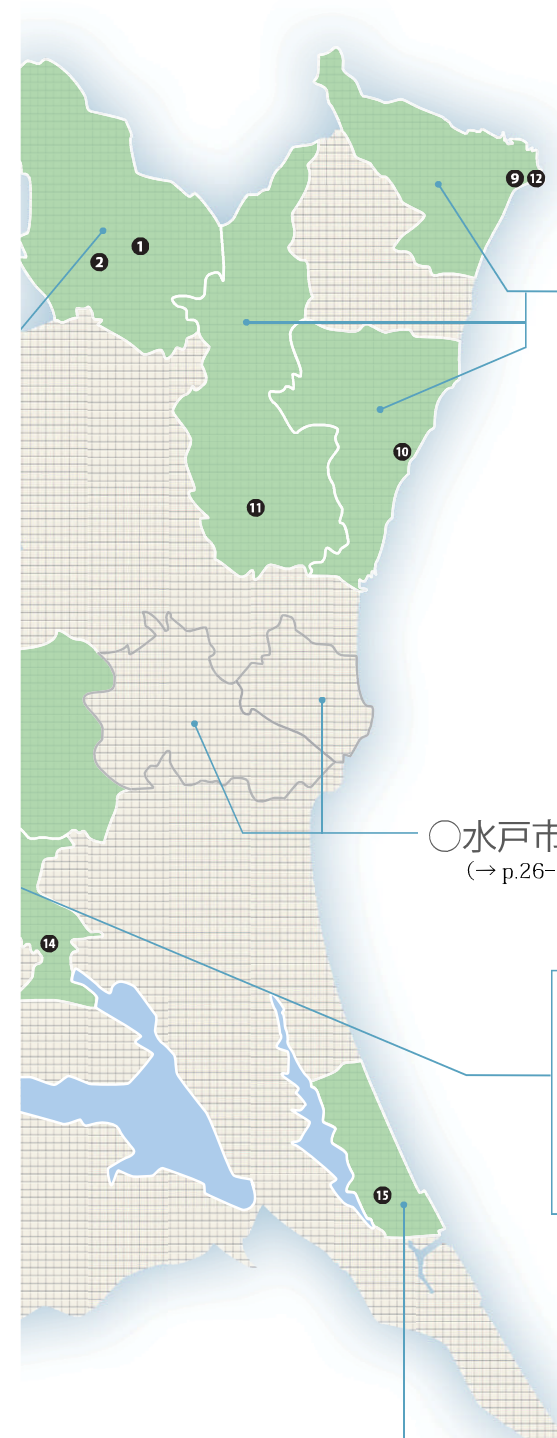
⑦つくばエキスポセンター（つくば市）



⑧ワプステーション江戸（つくばみらい市）

○つくば市・つくばみらい市

「歴史公園ワプステーション江戸」では時代を遡ることができ、つくば研究学園都市では、最新の科学技術などに親しんでもらうことを目的とした科学館「つくばエキスポセンター」で最先端の科学を体感できます。

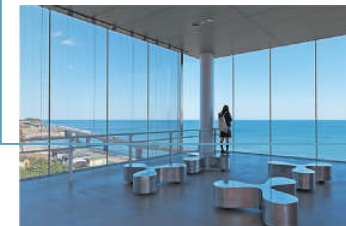


○北茨城市・日立市・常陸太田市

徳川光圀が晩年、「大日本史」編纂に残りの生涯を捧げるべく移り住んだ常陸太田市の「西山荘」や、近代日本美術の父・岡倉天心が活動の拠点とした「五浦」などがあります。



⑨天心記念五浦美術館（設計：内藤 廣）（北茨城市）



⑩日立駅（監修：妹島和世）（日立市）



⑪西山荘（常陸太田市）



⑫岡倉天心記念六角堂（北茨城市）

○水戸市周辺 （→ p.26-27）

○石岡市

岩の上からせり出して建つ本堂から絶景が楽しめる八郷地区の「西光院」、中町通り沿いに建ち並ぶ看板建築などが楽しめます。



⑬西光院



⑭看板建築



⑮鹿嶋神宮

○鹿嶋市

全国に約600社ある鹿嶋神社の総本社「鹿嶋神宮」は、武の神として古くから藤原氏の崇敬を受け、武士たちからも厚い信仰を得てきました。

写真提供：茨城県・一般社団法人 茨城県観光物産協会

◆水戸市周辺の建築・見どころ紹介



①弘道館 (→ p.28)
写真提供: 弘道館事務所

○水戸市

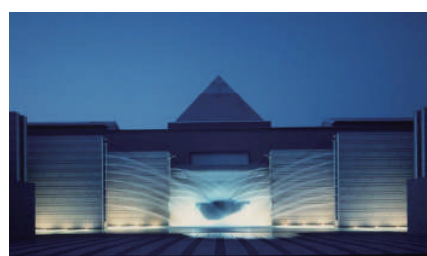
徳川光圀ら水戸徳川家歴代当主ゆかりの品約 3 万点を収蔵する「徳川ミュージアム」、日本三名園の一つで秋には可憐な萩の花が楽しめる「偕楽園」、磯崎新設計で独特な塔を擁する建築で知られる「水戸芸術館」などがあります。



②偕楽園



③徳川ミュージアム



④水戸芸術館
(設計: 磯崎 新)



国営ひたち海浜公園

○ひたちなか市

広大な敷地に群生するコキアとコスモスを楽しんだ後は、新鮮な魚介類をリーズナブルな価格で販売する「おさかな市場」へ。



那珂湊おさかな市場

写真提供: 茨城県・一般社団法人 茨城県観光物産協会



弘道館

弘道館は、天保12年(1841)に水戸徳川家9代藩主徳川^{なりあき}齊昭によって創設された藩校です。ご存知2代藩主徳川^{みつぐに}光圀、いわゆる「水戸の黄門様」が、礼節を重んじ、人の「義」を尊重した藩主であったことから「義公」と呼ばれました。それに対し齊昭は、藩政改革や時代の流れの中で「攘夷」を掲げるなど、その気性の荒さから「烈公」と呼ばれていました。

齊昭は、学問・教育の刷新を藩政改革の重要項目の一つに掲げ、水戸城三の丸の5万4,000坪という全国でも稀な規模の土地に藩校を建設しました。全国に現存する藩校の中で最大の規模を誇ります。

弘道館の充実ぶりは当時の識者を驚かせ、松代藩校「文武学校」、鳥取藩校「尚徳館」などの藩校建設に影響を与えました。文武の科目をはじめ医学や天文学に至るまで、当時としてはきめ細かな高等教育を行っていました。さらに、学問だけではなく武術の鍛錬の場として「調練場」を配し、軍事修練も行っていました。文武両道を実現した弘道館は、現在の総合大学のような性格を有しており、近世藩校の到達点と評価されています。

また、齊昭は「心身の安寧なくしては学問の大成はおぼつかない」との信念から、天保13年に弘道館と一対の学問・教育施設として「偕楽園」を開設させました。

弘道館の敷地内には、「八卦堂」「孔子廟」「学生警鐘」「鹿島神社」などを配し、文武修得の中心たる存在を示しています。八卦堂の中には、建学の精神の象徴である「弘道館記碑」を収蔵し、齊昭自筆の「弘道館記」が寒水石(大理石)に刻まれています。



弘道館正庁

写真提供：弘道館事務所

祝

日本遺産認定

正庁は学校御殿ともいい、藩主が臨席して文武の試験を行ったところで、藩主の御座所(休憩所)である至善堂とは長廊下でつながっています。それぞれ床や棚を有し、面取柱や長押を回した書院造となっています。屋根は、正庁は玄関を含め入母屋とし、至善堂は寄棟となっています。すべて棧瓦葺で、^{わちいから}輪違瓦が組み込まれた大棟が地方色を示しています。玄関の軒下には^{こからぶき}柿葺の下屋が付いているのが特徴で、独立柱と吊金物で吊っています。

江戸時代末期に多くの藩校が建築されましたが、弘道館は規模が大きく、その風貌からは大柄で簡素な手法が見受けられます。悠々とした趣と大藩の風格を感じさせる書院造建築の正統を継ぐものであります。

本年4月、藩校教育の到達点として評価される「弘道館」は、「偕楽園」などととも教育遺産群として日本遺産に認定されました。

これを機会に、見学されてはいかがでしょうか。



八卦堂 弘道館記碑



正門



輪違瓦